

赤湯生き方まっすぐネットワーク協議会（山形県）

赤湯生き方まっすぐネットワーク協議会の事務局をさせていただいております山形県南陽市立赤湯小学校の佐野と赤湯中学校の佐藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。



活動地域の紹介

私たちは、2人とも小中学校時代を楽しく過ごした学校に勤務させていただいております。学校教育が地域の皆様に支えられていることを実感するとともに、自分が担任している子供たちと一緒に地域の皆様とともに活動ができることを誇りに思っています。その活動を今日ここで発表できることをとても光栄に思っているところです。そんな2人で今日は本協議会の取組み、『つながり』と『ひろがり』でつくる安全・安心について紹介させていただきます。

山形県南陽市は人口約3万4,000人。その中にある赤湯地区は世帯数が約3,900戸、人口1万1,000人のまちです。顔の形をした山形県ののっこり笑ったえくぼの位置にあります。

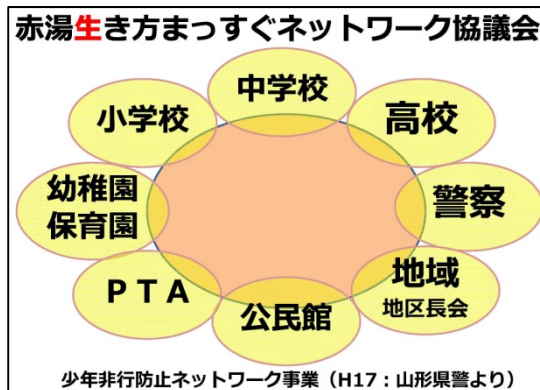
佐野 開湯920年を迎える赤湯温泉、ブドウやサクランボ等の果樹、桜やスカイパークといった美しい環境など、豊かな自然に囲まれた町です。最近では市役所の陸上部が駅伝で活躍したり、行列のできるラーメン屋さんが有名になったり、それらが地域の財産とマッチし、観光で訪れるお客さまも増えています。



団体概要

この赤湯地区で進められている「赤湯生き方まっすぐネットワーク協議会」は平成17年度、山形県警から「少年非行防止ネットワーク事業」の指定を受けたことが起源となっています。このネットワーク事業で地区内の関係機関、団体が一体となって地域の子供たちの健全育成を図ることを目的として設立しました。その後9年間、活動を見直したり、発展させたりしながら各機関・団体がそれぞれ持っている教育機能を連携・連動・一体化して独自のネットワークを構築してきました。

イメージとしては、地域全体の緩やかな連合体です。危険箇所などの改善に積極的に動いてくださる地区長会や防犯協会、警察署、民生児童委員、保護司会、青少年育成委員や補導委員、交通安全協会などの各種団体、そして幼保・小・中・高の教育施設とその保護者会、PTAが緩やかな連合体として結び付いているということです。このことから、防犯や安全・安心のまちづくりに対する地域住民の自発的な取組みが生まれ、さらに地域おこしや人材育成など具体的な取組みの広がりにつながっています。



活動(事業)内容・特長

それでは本協議会の特徴的な取組みをご紹介します。本協議会の取組みをまとめてみますと、3つの「つながり」と1つの大きな「広がり」というキーワードで表されます。1つ目のつながりは、「子供と地域がつながり」です。2つ目は、「家庭と地域がつながり」、3つ目は、「地域相互のつながり」です。それが犯罪のないまちづくり、ひいては地域愛などの思いに広がっているのです。

さて、1つ目のつながり、「子供と地域のつながり」

についてお話をさせていただきます。本ネットワーク協議会では毎年秋に子供、保護者、教職員、地域の方が集まり、「まっすぐミーティング」と題して、防犯やまちづくりに関する意見交換を行っています。

この写真は昨年度のまっすぐミーティングの写真です。犯罪や非行に進んでしまう子供たちの表現力や忍耐力がなく、自己中心的で無関心といった傾向と、その打開方法を話し合っているところです。子供たちの考えを十分に生かすことができるよう、子供たちの心の中にいる、「倒したい悪役キャラクターと倒すための武器」というテーマを設定し、大人も含めたみんなで真剣に意見交換をします。

これは気力がないという傾向について話し合ったグループのまとめです。ここに出てきたキャラクターは「だらけもん」。どの子供たちの心の中にも住んでいそうなキャラクターです。この「だらけもん」を撃退する「メリハリ」という武器を持った「メリハリンリン」が登場します。つまり「だらけ」に打ち克つものは「メリハリ」のある生活だというわけです。こういうことを子供だけではなくて大人や、おじいさん、おばあさんまで真剣に話し合います。

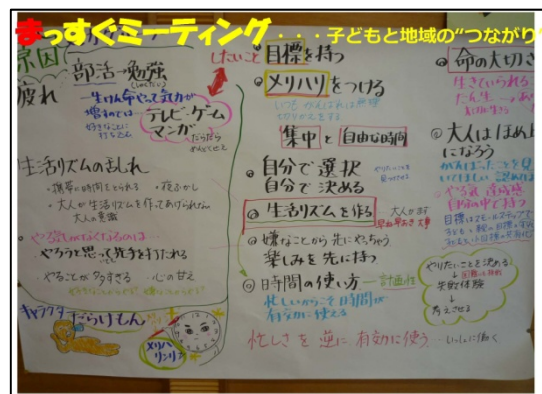
キーワードは、「つながり」と「広がり」

- ・ **子どもと地域の“つながり”**
- ・ **家庭と地域の“つながり”**
- ・ **地域相互の“つながり”**



・ **犯罪のない街づくり・地域愛**
 ・ ・ ・ ・ ・ **思いの“広がり”**





このように1つの答えを探し出すと言うよりは、様々な世代の考えを聞き、特に子供たちが大人と同じテーマで話し合うことに大きな意義があると感じています。それは時間を共有し、大人は子供の考えをしっかりと受け止めてくれていたと感じるからです。その上で意識や環境の違いが明らかになり、それを互いに理解しながら意見交換を行っています。

話し合いの後には、参加者の防犯や安全への思いを地域に発信するワークショップなども取り入れ、なごやかな雰囲気の中で各世代が会話を楽しみながら地域の安全を願う活動ができました。

2つ目のつながりは「家庭と地域のつながり」です。本協議会が主催し、PTAが中心となって地域懇談会を開催しています。幼稚園、保育園、小学校、中学校の子供を持つ保護者と、地区内各種団体の皆様が子育てなど、テーマごとの分科会で意見交換を行っています。

昔は、場を設定しなくてもこのような光景が地区内の至るところで自然に見られたのかも知れませんが、子育てのベテランの地域の皆様から若い保護者がアドバイスをいただく場面が数多く見られます。ここではコミュニケーションの基本となる挨拶から大人のマナーに至るまで、多岐にわたる意見が出されています。

地域の方からは学校のがんばりを応援、激励していただいたり、またゲームや情報化といった昨今話題となることについて話が及んだり、話題は尽きません。この活動もそのときどきで視点を変えながら9年間継続して実施できています。今年度もこれから行うのですが、LINEなどそういう情報に関しての話をするようになっていきます。

「家庭と地域のつながり」は、PTAでは親子のふれあいを大切にしようという取組みを各施設で行っており、PTAの広報誌などを通じて防犯の意識、規範意識の礎となる家庭生活のふれあいを親世代に働き掛けています。

また、赤湯の宝である温泉を活用した「ふれあい入浴」を全ての教育施設のPTAで実施しました。



赤湯財産区のご協力をいただき、家庭で銭湯に入れる券を各家庭に配布しました。「じいちゃん、父ちゃんに行った、初めて入った、熱かった、また行くっちゃ」という声があったり、その後、「何回かまたじいちゃんに行ったぜ」というような声があったり、大変好評です。

本協議会の取組みを継続していく中で大きな課題がありました。青年層をどう取り込むかという点です。つまり関わっているのは子供と親世代、じいちゃん、ばあちゃん世代で、この取組みには20代の若者の力が必要なのではないかという声が出てきたわけです。そこで2年前より、地域で活躍している青年グループの皆さんと連携した取組みを進めています。

これが3つの地域の相互のつながりです。この写真は青年のアイデアで南陽市の事業として採用されたご当地ヒーローです。「南陽宣隊アルカディオオン」という活動などに積極的に参加している青年グループと中学生がアイデアと出し合い、地域に掲示する防犯ポスターを作成すべく話し合いを行っているところです。



このヒーローの中に入っているのは4人とも中学生です。防犯ポスター作成という目的で集まったのですが、中学生は青年グループの皆さんとの会話の中で地域に懸ける熱い思い、郷土愛までも感じ取っている様子で、一緒に活動できる喜びを実感しているようでした。

この中に入っている中学生は毎朝、「交通安全ありがとう運動」という活動を小学校の前の横断歩道で行っています。

子供たちが犯罪に巻き込まれる確率の多い登下校の時間、まず朝は中学生が呼び掛ける安全・安心が地区内に広がります。彼らは、小学生のときから地域で活躍する中学生を見ています。その姿を見た小学生は、中学生になったらと考えます。このつながりもネットワークで連携・連動している取組みです。

下校時は公民館が主体となり、地区内の方々約



200 名が登録している地域見守り活動が行われています。ここでも子供たちと地域の方々が挨拶を通してつながります。赤湯地区ではここ数年、不審者に関する事案がありません。挨拶を通して地域のつながりが犯罪を抑止していることを実感しています。

活動効果

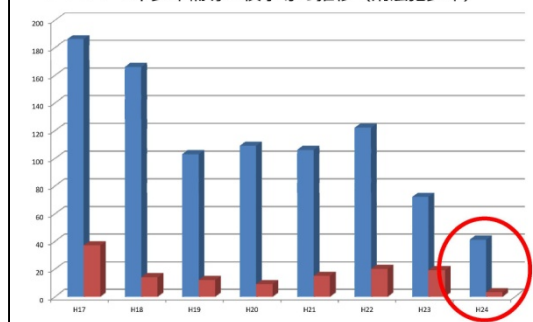
これらの取組みを通じた地域内の防犯意識の高揚、子供たちの健全育成について数字の面でも成果となって表れています。この数字から南陽署管内における刑法犯の認知件数の減少がひと目で分かります。また少年補導に関して言えば、さらに顕著なデータが出ており、平成 24 年度は少年補導件数が 41 件、うち刑法犯少年は 3 名です。本協議会が発足して以来、年々減少しています。地域全体で児童・生徒を見守る地域の方々から温かく見守られているという、相互の「つながっている」という意識が防犯意識を高揚させ、定着化していると感じます。

活動の成果・・・刑法犯認知件数の減少



活動の成果

・・・市少年補導・検挙等の推移（刑法犯少年）



本協議会の取組みはネットワーク通信として地域回覧をしています。安全・安心のまち、豊かなまちづくりに掛ける思いを「おぼご（子供）」から「としより（年寄り）」まで共有できていること。がんばる大人の姿を子供たちが見ていることが大きな成果と言えると思っています。

Akayu
生き方まっすぐネットワーク通信

平成24年度スタート

『おぼご』から『としより』まで
ネットワーク通信の発行
“思い”の共有

社会情勢・家庭環境の変化
※子どもたちを取り巻く環境
の変容

今後の課題



近年の社会状況や家庭環境の急激な変化に伴い、児童生徒を取り巻く環境も大きく変容しています。本協議会の財産を大切にしながら、ニーズに合った取組みも企画していかなければなりません。今後も犯罪のないまちづくりを目指すとともに、地域を挙げて防犯につながる子供たちの郷土愛、地域愛の醸成を続けていきたいと思っています。ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

●質問 発表の中で「まっすぐミーティング」と称して安全なまちづくりを中学生とともに検討しているというお話がありました。生徒さんがこのような活動に参加することによって生徒自身が変わっていったことや、また町が、地域が変わっていったことについて何かお気付きになったことはありますか。

○回答 「まっすぐミーティング」で大人の方、地域の方と中学生、小学生が話し合いをしてつながっていきわけです。「メリハリ」なんていうことを話し合ったりしながらつながりをつくっていきます。そこを楔（くさび）にしなが、子供たちが学校帰りとか登校のときに、地域の大人の方に「おはようございます」とか「こんにちは」と元気に挨拶をするものですから、地域の方からも「いま帰ったんだ～」とか「元気だな～」なんていうような挨拶が相互に交わされるようになってきました。うちの学区の子供たちは誰に対しても「こんにちは」と語り掛けるものですから、不審者みたいなものがすごく減ってきたというようなことが挙げられます。

あと中学生が行っている「交通安全ありがとう運動」も、実は平成19年度に、小学生の登校の列に車が突っ込んで、尊い命が亡くなったという大きな事件がありました。その際、小学生たちの寂しがつている、不安そうに歩いている様子を見て、あのときの生徒会長が始めた活動なのですが、そういう形で中学生が街頭に立って毎朝やっているものですから、ネットワークの方とか警察の方々が、コートや「止まれ」の旗を準備してくだったりとか、中学生がやっている脇をパトカーが毎朝通って、「ご苦労さん」と声を掛けてもらったりしています。本当に相互に子供たちも犯罪のないまちづくりに関わっているという意識が強くなってきたように感じています。